

WIN PROJECT WIN

平成30年度
学校地域WIN-WINプロジェクト実践報告書



埼玉県マスコット
「コバトン」・「さいたまっち」

平成31年3月
埼玉県教育委員会

はじめに

これからの時代は、少子高齢化や飛躍的な技術革新など、今までに直面したことのない、予測困難な時代になることが予想されます。

そのような時代を担う子供たちが、心豊かでたくましく成長していくには、子供の頃から社会や人々と関わり、多様な経験をすることが大切です。

地域にある多様な人的・物的資源を活用した学びは、個々の教科などでの学びを深め広げるだけでなく、主体的に考え行動したり、他者と連携・協働することなどを学ぶとともに、地域が人を育て、人が地域を作る好循環を生み出します。

本県では、平成30年度の新規事業として県立学校において、学校外の人的・物的資源（企業・NPO・市町村・地域人材など）を活用した実社会からの学びを充実するとともに、学校の力を地域で生かす取組「学校地域WIN-WINプロジェクト」を実施しました。

このプロジェクトは、実践研究校5校（小川高校・庄和高校・鳩山高校・吉川美南高校・越谷西特別支援学校）を指定し、年間を通して地域との連携に取り組みました。また、実践研究校の成果の普及と教職員と企業等の交流の機会であるフォーラムの開催や、学校と企業をマッチング・コーディネートして教育を実践するなど、合わせて3つの取組を行いました。

これらの取組により、生徒は、地域の良さや特徴、課題を知るとともに、多様な人々との関わりを通して、主体性や思考力、自己肯定感を得ることができました。教職員や地域の方々は、次代を支える子供たちが、高校でどのような力を身に付けるのか、大人たちがそれぞれの立場で何ができるのかなどについて、考える機会となりました。

本報告書では、実践研究校などの優れた取組事例を紹介しております。今後、多くの学校で継続的に実社会からの学びを充実できますよう、本報告書を御活用くださいますようお願いいたします。

結びに、「学校地域WIN-WINプロジェクト」の取組に御理解・御尽力いただきました皆様、並びに本報告書の作成に当たり、実践事例の掲載に御協力いただきました皆様に、心からお礼を申し上げます。

平成31年3月

埼玉県教育委員会教育長 小松 弥生

1	学校地域WIN-WINプロジェクト	
	概要	2
2	学校地域WIN-WINプロジェクト実践研究校の取組	
	実践研究校5校の概要	5
	埼玉県立小川高等学校	6
	埼玉県立庄和高等学校	10
	埼玉県立鳩山高等学校	14
	埼玉県立吉川美南高等学校	18
	埼玉県立越谷西特別支援学校	22
3	学校地域WIN-WINプロジェクトフォーラムについて	
	フォーラムについて	28
	アンケート集計	33
4	教育プログラム	
	教育プログラム一覧	36

参考資料（フォーラム資料）

【学校地域WIN-WINプロジェクト実践研究校】

埼玉県立小川高校	46
埼玉県立庄和高校	49
埼玉県立鳩山高校	52
埼玉県立吉川美南高校	54
埼玉県立越谷西特別支援学校	55

【地域課題探究型学習モデル事業】

埼玉県立北本高校	57
埼玉県立越生高校	59

学校地域WIN-WINプロジェクト

WIN
PROJECT
WIN

概要

- 学校以外の人的・物的資源(企業、NPO、市町村、地域人材など)を活用した実社会からの学びを充実する(学校のWIN)
- 学校の力を地域で生かす取組を推進する(地域のWIN)

目的

- 子供たちがより良い社会と幸福な人生の創り手となる力を育む
- 「社会に開かれた教育課程」や「カリキュラム・マネジメント」、「総合的な探究の時間」など、新学習指導要領への対応に備える



取組 1 教育局に窓口を設置し学校と地域をつなぐ

- ・年間を通して地域の力を教育活動に活用する取組や学校の力を地域に生かす取組の提案を学校から募集
- ・学校や地域のニーズに応じて、教育局職員が学校と地域の両者のマッチング・コーディネートを実施

取組 2 県立学校5校で、先行事例を打ち出し事業を牽引する

- ・県立学校(小川高校、庄和高校、鳩山高校、吉川美南高校、越谷西特別支援学校)を実践研究校として指定
- ・学校、地域、県が連携しながら、学校・地域両方がWIN-WINとなるモデルを打ち出す

取組 3 学校地域WIN-WINプロジェクトフォーラムを開催する

- ・実践研究校の生徒による研究発表
- ・学校職員と企業等との交流の機会を設ける